

市場アップデート – 2016年5月11日

– 4月の雨が5月に花を咲かせる –

リスクオフ環境は間近に迫っているのでしょうか。



マーク・ダウディング

パートナー兼投資適格債チーム共同ヘッド

【市場環境及びクレジット債市場の動向】

リスク資産は先週下落し、5月は弱含みのスタートとなりました。日本市場の低迷がアジア市場全般に悲観的な心理をもたらしたことに加え、米国においてアップルの決算が振るわず市場を押し下げたことから、この数週間にわたり力強く上昇した世界市場は緩やかに反落しました。国債利回りと株式市場が低下して一週を終えた一方、社債とエマージング債券のスプレッドは上昇し、リスクオフ基調の拡がりを示唆しました。しかし、欧州全域のメーデーと日本のゴールデンウィークのため短縮された1週間において、コモディティ価格はほぼ横ばいとなり、米ドルはいくぶん上昇し、最近の高い相関が弱まり始めていることを示唆しました。

経済指標の傾向を見て、一部の投資家は最近の軟調な地合いを強調しており、ISM製造業景況感指数やADP雇用統計がさらに市場予想を下回りました。その後、シティグループの米国経済サプライズ指数が2月以来の低水準となる-30をつけ、昨年の平均を大幅に下回りました。その他、アトランタ連銀のGDP予測によれば、第1四半期の成長率が0.5%と予想を下回ったのち、第2四半期には1.7%をつけると予想しています。これは健全な回復を示唆するものですが、ニューヨーク連銀が新たに公表した代替指標は、第2四半期の成長率を0.6%と低く予測しています。第1四半期に改善した中国の経済指標が長く続く可能性は低いとの見方を背景にした停滞感があると判断できます。ブルーベイでは、今年の米国経済が相対的に堅調との見方をとる傾向にあります。下振れリスクが顕在化した場合、下支えとなる緊急の追加政策があまりないと思われ、その結果、政策の効果がますます薄れているとの不安を生じさせる可能性があるといえます。

【今後の見通し】

来週初めから、アジア市場に関心が戻ると思われます。原油価格が(今回に限り)市場の動きを主導していないと見受けられるなかで、株式市場に焦点が当てられると思われ、そこでは日本と欧州の株式が最近の低迷の中心となっており、米国が相対的に堅調です。欧州と日本では、株式投資家が政策当局に幻滅しており、軟調な業績を背景に、投資家心理は下向きです。米国では、市場が上昇するためには、経済成長が(FRBが利上げを行うほど)強過ぎないと同時に、(期待外れの決算が続くほど)弱過ぎないような、狭い範囲内にとどまる必要があると考えています。これはますます難しい綱渡りとなっており、政策当局による新たな刺激策が不在のなか、市場は過去最高値をうかがうよりも、価格下落に向けた経路を辿る可能性が高いと思われます。ドナルド・トランプ氏の躍進も、この点に関してあまり期待できないでしょう。同氏が大統領に選ばれた場合、同氏の経営スタイルを勘案すると、国の運営を有能なチームに任せると思われますが、選挙期間において、トランプ氏にまつわる不安は同氏個人に対する不安よりも大きくなる可能性があります。「5月に売り抜ける」(そして今年はまだ9月8日となる「セント・レジャー・デーまで戻ってくるな」という格言は、英国の金融市場では一般的です。その格言通りの展開になるかどうかは不明ですが、夏にリスクオフ基調となれば、投資する好機が生じるとみています。

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
関東財務局長(金商)第1029号
加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、資料作成時点(2016年5月11日)のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社による書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途「契約締結前交付書面」等をお渡しますので、当該書面等の内容を十分に

読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなされるようお願いいたします。